

## 分科会まとめ ③

### 1. コーディネーター名

壽賀 恵美子

### 2. 参加者数

10名（宮城県 3名・山形県 5名・福島県 2名）

### 3. テーマ

ワーク・ライフ・バランスの実現

### 4. ディスカッション内容

最初に参加者全員自己紹介を含め、ワーク・ライフ・バランスについて、今考えていること・抱えている問題等を話し合った。

20代の方からは育児休暇を取ることは、年齢も近い人たちなので理解できるが、上司が突然介護だと言って休むのは、まだ理解しきれていない。

40代の方からは、夫と家事を分担してやっているが、なかなかきちんとやってくれないのでけんかになる。

妻が単身赴任している。夫の理解が不可欠。

手術をして職場復帰しようと思っても、元の仕事が出来なかったり、周りの理解がなく復帰できなかつたりすることが多い。

50代以上の方からは、仕事の他に家事、育児はすべて自分でやってきた。それを当たり前だと思って頑張ってきた。夫は、家事はほとんどしてはくれなかったが、大変な時はやさしく手伝ってくれた。やさしくなければやってこれなかった。などの問題提起があった。

それらに対して、家庭の中では、女性が働き続けるためには、夫や家族の理解や意識が必要であること。職場の中では、同年代だけでなく育児や介護について話し合い理解しあうことが大切であること。大企業では、長時間労働の制限や看護休暇等の取得について労働環境が整いつつあるが、中小企業においてはまだ整っていないところが多い。男女ともに**生き生き**と働くためには、国が行政としてきちんと規制すべきであること。また、病後や障害のある方についても、個々の状態に合わせた働き方ができるような社会にするために周りの理解と、会社の対応が必要であること。などの意見が出された。

一昔前と比べれば、共働き家庭の家事分担や、女性の働き方はずいぶん変わってきたが、育児、介護、病気等が加わってくるとまだまだ女性に負うことが多く、賃金についても正社員の男女格差は縮まらない。これからのワーク・ライフ・バランスの実現については、家庭、職場、社会の中での理解も大切であるが、行政の力も必要であると感じた。